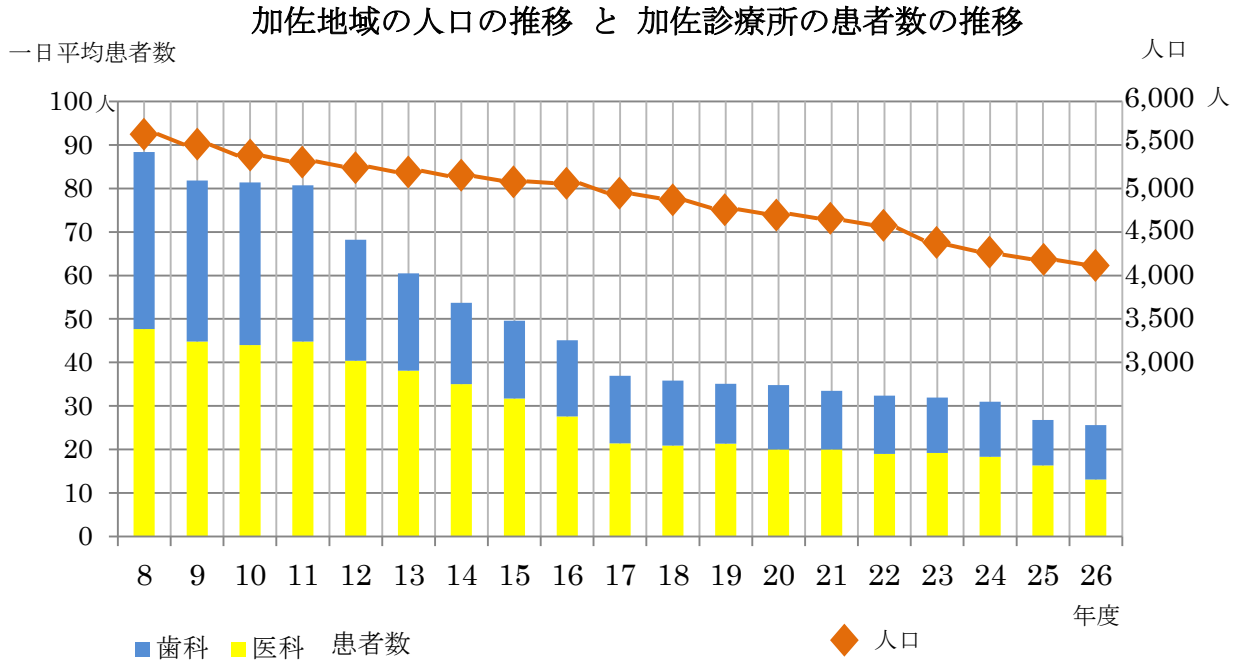


3 複合的分析・総括

(1) 加佐診療所の患者数と加佐地域の人口の推移

加佐診療所の外来患者数は年々減少の一途を辿っている。要因としては少子高齢化・人口減少が進み、地域社会や家族構成等の変化が背景にあると考えられる。



《表 1》

年度	住民基本台帳人口			加佐診療所 患者数		
	人口	対前年度	高齢化率	1日平均	うち内科	うち歯科
8	5,574			88.4	47.7	40.7
9	5,509	△1.2%		81.8	44.8	37.0
10	5,415	△1.7%		81.4	44.0	37.4
11	5,368	△0.9%		80.7	44.8	35.9
12	5,246	△2.3%		69.2	40.4	27.8
13	5,175	△1.4%		61.4	38.1	22.4
14	5,144	△0.6%		54.6	35.0	18.7
15	5,057	△1.7%		51.0	31.7	17.9
16	5,044	△0.3%	36.4%	46.3	27.6	17.5
17	4,966	△1.5%	36.4%	37.7	21.4	15.5
18	4,845	△2.4%	37.2%	36.5	20.9	14.9
19	4,731	△2.4%	37.5%	35.4	21.3	13.8
20	4,689	△0.9%	38.0%	34.9	20.0	14.8
21	4,623	△1.4%	38.4%	33.5	20.0	13.5
22	4,542	△1.8%	39.2%	32.4	19.0	13.4
23	4,388	△3.4%	40.0%	31.9	19.2	12.7
24	4,290	△2.2%	40.1%	31.0	18.3	12.7
25	4,209	△1.9%	41.9%	26.8	16.3	10.5
26	4,112	△2.3%	43.0%	25.6	13.1	12.5

(2) 調査回答状況

今回の調査に回答いただいた地域属性は、回答率が全体で 58%、地区別にみても 55%から 63%の範囲にあり【問 1】、概ねどの地区からも同程度の割合であることから、これを母集団とした調査結果は加佐地域の全体像を反映していると考えられる。

調査回答状況は《表 2》のとおり。全体では 840 世帯の 2,391 人で、うち 65 歳以上の高齢者が 1,147 人の 48%となっており、実際の高齢化率 43%よりは若干高めに
出ている。また 65 歳以上の高齢者のみで構成されている世帯は 343 世帯の 574 人で全世帯のほぼ 4 割を占めている【問 3】。

調査回答状況 《表 2》

区分	配布世帯	回答世帯 全体	高齢者が いない世帯	高齢者が いる世帯	高齢者のみ の世帯
世帯数	1,445	840	118	722	343
世帯人数	4,112	2,391	336	2,055	574
			高齢者数	1,147	574

(3) 受療動向(医療機関受診状況)

今回の調査に回答いただいたものを母集団として、加佐地域住民の医療機関への受診状況の全体的な把握と傾向の分析を行った。

㊦ 病院・医院・加佐診療所の利用状況

《表 3》 ※世帯単位で集計

区分		全体	加佐診療所の利用なし			加佐診療所の利用あり	
			病院と医院	病院のみ	医院のみ	診療所と他院	診療所のみ
病状ありと 回答した 世帯	世帯数	762	141	111	91	349	70
	病状あり人数	1,267	266	167	141	611	67
医療機関 利用人数 (重複回答)	病院	777	194	159	—	424	—
	医院	641	201	—	139	301	—
	加佐診療所	495	—	—	—	416	79

医療機関の延べ利用人数は病院 777+医院 641+加佐診療所 495 = 1,913 人【問 7】となり、病状ありとした 1,267 人【問 4】からみれば、多くの方が 2 か所以上の医療機関を利用されている実態が伺える。ただし、世帯単位で集計しているため同数とはならない。

病状のある人 1,267 人からみると、病院利用が 61%、医院利用が 51%、加佐診療所利用が 39%の割合であるが、回答世帯全体の人数 2,391 人からみると、加佐診療所利用は 21%となり、おおよそ 5 人に 1 人が利用されていることになる。

また、加佐診療所のみ利用は 70 世帯の 79 人とどまっている。

4 医療機関を選ぶ理由

病院を選ぶ主な理由は、①過去に入院や手術(56%) ※問 6 で 533 人と回答あり ②以前から受診(54%) ③専門的な医療(44%) ④様々な診療科がある(32%)【問 8-①】、

医院(開業医)を選ぶ主な理由は、①以前から受診(54%) ②気軽さ(47%) ③専門的な医療(16%)【問 8-②】、

加佐診療所では、①市街地の医療機関受診は遠くて不便(47%) ②送迎バスがある(28%) ③受診したい診療科がある(25%)【問 12】となっている。

4 加佐診療所の医科と歯科の利用状況

加佐診療所の利用人数全体 495 人のうち、医科利用は 415 人、歯科利用は 264 人であることから、医科・歯科ともに利用しているのは 184 人と算定される。

医科の利用頻度は【問 10】のとおりだが、外来診療では 3 ヶ月以内の期間が一般的と考えられるから、健診等を除くと医科診療は 415 人より少ないと考えられる。

実際の 1 週間当たりの利用状況は、医科では 1 日平均患者数 13.1 人を週に換算すると 1 週間に 65.5 人が利用されている。また、歯科では 1 日平均患者数 12.5 人を週に換算すると 1 週間に 62.5 人となる。

4 3 年前の調査からの医療機関利用状況の変化

前回のアンケート調査と今回では、前回は「個人」、今回は「世帯」を単位として調査し、質問内容や形式が若干異なるため単純な比較はできないが、医療機関の利用状況について比較した。ちなみに、調査に回答いただいた回収率は、前回 52%であったものが今回は 58%となっている。

《表 4》

利用医療機関		前回	今回
病院を利用		57.4%	61.3%
医院(開業医)を利用		59.8%	50.6%
加佐診療所を利用	単独利用	7.5%	6.2%
	他院併用	28.2%	32.8%

4 受療動向について

この 20 年近くの間、加佐地域の人口の減少を上回る率の加佐診療所患者数の減少が続いている。この背景には、次第に医療が進化して高度化・専門化してきている中で、これらの医療を求めているといったことが考えられ、病院へのシフトが進んでいる。

その一方で、病院だけでなく医院に専門医療を求めている方もおられ(問 8-②では 20%)、一部には病院では長い待ち時間などの理由から医院が選ばれていると考えられる。

病状ありとした 1,267 人からみると、病院利用が 777 人の 61%、医院利用が 641 人の 51%、加佐診療所利用が 495 人の 39%となっており、医療機関の延べ利用人数は 1,913 人で、多くの方が 2 か所以上の医療機関を利用されている。

加佐診療所のみ利用は 70 世帯と少ないものの、加佐診療所と他院の利用は 349 世帯あり、また、加佐診療所利用理由の「送迎バスがあるから」と「市街地の医療機関受診は遠くて不便」を合わせた実回答数は 288 件で診療所利用世帯の 7 割近くにおよび、診療内容よりも利便性を理由とした利用が大半を占めている。

加佐診療所の利用状況は、回答全体人数 2,391 人からみると、加佐診療所利用 495 人は全体の 21%で おおよそ 5 人に 1 人が、そのうち医科では 415 人の 17%で おおよそ 6 人に 1 人が利用されている。

また、加佐診療所の医科では、月 1 回から 2 ヶ月に 1 回など 3 ヶ月以内に受診するのが全体の 6 割を占め、歯科では半年に一度から 1 年に一度程度の受診が全体の 6 割近くとなっている。

4 通院方法（交通手段）の状況

加佐診療所利用の有無により交通手段が異なるため、次の三つの場合に分け、世帯全体と高齢者のみの世帯の状況を集計した【問 9】。

※高齢者：65 歳以上 ※通院方法は重複を許して集計

加佐診療所のみ利用している世帯の状況 《表 5》

世帯		医療機関別利用人数			区分	通院方法別利用人数				
世帯数	世帯人数	病院	医院	加佐診療所		自家用車	家族送迎	診療所バス利用	KTR・バス	タクシー
70	170	-	-	79	世帯全体	27	8	29	2	1
32	42	-	-	36	高齢者のみの世帯	10	3	14	0	1

加佐診療所と他院を利用している世帯の状況 《表 6》

世帯		医療機関別利用人数			区分	通院方法別利用人数				
世帯数	世帯人数	病院	医院	加佐診療所		自家用車	家族送迎	診療所バス利用	KTR・バス	タクシー
349	1,040	424	301	416	世帯全体	390	134	114	38	31
159	281	185	109	189	高齢者のみの世帯	153	50	58	21	21

加佐診療所利用なく病院または医院を利用している世帯の状況 《表 7》

世帯		医療機関別利用人数			区分	通院方法別利用人数				
世帯数	世帯人数	病院	医院	加佐診療所		自家用車	家族送迎	診療所バス利用	KTR・バス	タクシー
343	980	353	340	-	世帯全体	400	111	-	29	25
137	228	128	134	-	高齢者のみの世帯	155	31	-	10	8

通院への交通手段は圧倒的に自家用車の利用で、複数回答ではあるが、医療機関利用 762 世帯のうち、自家用車利用が 549 件・家族送迎は 225 件で、自家用車・家族送迎を合わせた実件数は 633 件で 83%を占める。加佐診療所を利用されている世帯も、診療所バスを一定利用されているが自家用車や家族送迎の割合が高い。

(4) 連絡バスの利用

加佐地域と公的病院循環バス(東西循環バス)を連絡するバスが運行された場合の利用について、【問 13】の利用する・しないを利用医療機関別・世帯構成別に調べた結果を《表 7》に表示した。

《表 8》

※高齢者：65 歳以上

利用医療機関	世帯構成	世帯数	利用したいと回答した世帯	利用回答率
加佐診療所のみ利用	世帯全体	70	51	72%
	高齢者のみの世帯	32	26	81%
加佐診療所と他院を利用	世帯全体	349	217	62%
	高齢者のみの世帯	159	101	64%
加佐診療所利用なく病院または医院を利用	世帯全体	343	173	50%
	高齢者のみの世帯	137	85	62%
計	世帯全体	762	※441	58%
	高齢者のみの世帯	328	212	65%

※ 問 13 の 471 件は全体からの回答で、医療機関利用では 441 件

これをみると、どの場合も世帯全体より高齢者のみの世帯の方が利用したいと回答した率が高くなっている。

さらに、これを交通手段(医療機関への通院方法)別に分けて、どのような傾向がうかがえるか調べて《表 9》に表示した。

次頁の《表 9》をみると、連絡バスの利用については、通院に自家用車を使っている世帯の 54% (高齢者のみの世帯では 60%) が連絡バスを利用したいとしており、家族送迎ではそれより少し高く出ている。さらに、KTR・バス、タクシーを使っている世帯では連絡バスを利用したいが 7 割 (高齢者世帯では 8 割から 9 割) で、診

療所バス利用者では 8 割以上となっている。

加佐地域からは医療機関に通院するには何らかの交通手段が必要であり、今後、ご本人の高齢化やご家族の事情から公共交通の利便性向上への期待は高まるものと推察される。

《表 9》

※複数回答

交通手段	利用医療機関	全体			高齢者のみの世帯		
		世帯数	利用	利用率	世帯数	利用	利用率
自家用車	加佐診療所のみ利用	24	16	67%	9	7	78%
	加佐診療所と他院を利用	259	147	57%	108	61	56%
	病院または医院を利用	266	136	51%	110	68	62%
	計	549	299	54%	227	136	60%
家族送迎	加佐診療所のみ利用	8	4	50%	3	1	33%
	加佐診療所と他院を利用	122	83	68%	47	31	66%
	病院または医院を利用	95	56	59%	30	21	70%
	計	225	143	64%	80	53	66%
KTR・バス	加佐診療所のみ利用	2	2	100%	0	0	
	加佐診療所と他院を利用	36	29	81%	20	18	90%
	病院または医院を利用	26	14	54%	10	8	80%
	計	64	45	70%	30	26	87%
タクシー	加佐診療所のみ利用	1	1	100%	1	1	100%
	加佐診療所と他院を利用	29	24	83%	19	18	95%
	病院または医院を利用	21	12	57%	7	6	86%
	計	51	37	73%	27	25	93%
診療所バス	加佐診療所のみ利用	27	24	89%	14	14	100%
	加佐診療所と他院を利用	93	76	82%	47	39	83%
	病院または医院を利用	0	0		0	0	
	計	120	100	83%	61	53	87%

(5) 訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ

加佐診療所を利用している・していないを切り口に訪問診療、訪問看護・リハビリの必要性についての設問【問 16、問 17】を集計《表 10》。

《表 10》

加佐診療所	世帯 (件数)	訪問診療				訪問看護・訪問リハビリ			
		現在必要	割合	将来必要	割合	現在必要	割合	将来必要	割合
利用している	419	20	5%	290	69%	18	4%	299	71%
利用していない	421	17	4%	249	59%	21	5%	268	64%
計	840	37	4%	539	64%	39	5%	567	68%

訪問診療、訪問看護・リハビリの利用は、全体としては、現在必要が4%～5%であるが将来必要は64～68%になる。

加佐診療所を利用している・していないの比較では、現在必要の割合にあまり差はないが、将来必要では訪問診療では10ポイント、訪問看護・リハビリでは7ポイント加佐診療所を利用している方が高くなっている。

(6) 調査結果・分析を踏まえた今後の課題

この20年近くの間に加佐地域の人口の減少を上回る率の加佐診療所患者数の減少が続いている。この背景には、次第に医療が進化して高度化・専門化してきている中で、これらの医療を求めているといったことが考えられる。

地域で近くに安心して医療にかかることのできる診療所の必要性は論を待たないが、診療所の機能という面からは、診療所がすべてのニーズに応えていくことは困難で現実的ではなく、今後、本市全体の医療供給体制からみた診療所としての適切な役割を検討していくことが必要と考える。

病院へのシフトが進んでいて、3年前の調査では医療機関利用者のうち57%の方が病院を利用されていたものが今回は61%となっており、また、加佐診療所と他院を併用されている方も増加している傾向にある。

市街地への医療機関への通院は、自家用車と家族送迎を合わせると8割以上におよび、それに代わる、あるいは交通手段の選択肢が増えれば通院しやすくなり、送迎の負担も緩和される。どの交通手段であれ、連絡バスを利用したいと多くの方が回答されており、加佐地域においては市街地の医療機関への便利なアクセスが望まれる。

また、高齢化が一層進み、車の運転をしない方が増え、さらには外出が不自由な状態の方が増えれば、訪問診療や訪問看護、訪問リハビリのニーズは高まるため、それに応えられる環境づくりが求められる。

ただ、これは加佐地域に限ったことではなく、全国的にも在宅医療や在宅介護を基本とした地域の包括的なケア体制の構築が喫緊に必要とされており、特に、市街地から離れた地域の在宅ケアをどうしていくかが今後の課題となっている。